

くすの木タイム学習指導案

第4学年

I 単元 若い人に落語に興味をもってもらえる落語会を開こう
(目指せ！幸せ届ける笑学生^{しょうがくせい})

II 考察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

①知識及び技能

落語や落語にかかわる人々の特徴・よさ，それらを得るのに必要な技能

②思考力，判断力，表現力等

落語や落語にかかわる人々の特徴・よさ等を関連付けながら課題を見だし，解決方法を導き実践する力

③学びに向かう力，人間性等

落語や落語にかかわる人々と関わることへの意欲や自信を高めながら，自ら探究する態度

(2) 学習内容

・探究課題 人を楽しませることと，自己の生き方

・その具体 人：落語家や落語にあまり興味のない若い人

こと：人を楽しませる伝統芸能である落語の魅力，自分とのつながり

(3) 単元の価値

大単元「目指せ！幸せ届ける笑学生^{しょうがくせい}」は，人を楽しませる落語について調べ練習して得た落語や落語にかかわる人々の特徴・よさを基に，落語を他者に披露する学習である。その4番目の小単元「若い人に落語に興味をもってもらえる落語会を開こう」は，これまで得た落語の特徴・よさを発信する学習である。その価値は以下のとおりである。

人は人を楽しませることによって，自らも楽しい気持ちになる。また，自らが楽しむことで，人を楽しい気持ちにすることもできる。昔から人々を楽しませて発展してきた日本の伝統的な話芸の一つに落語がある。落語は，演者の話し方・仕草と聴き手の想像力の両者によって斬の世界を広げていく。ゆえに演者は単に暗唱した斬を話すのではなく，聴き手の反応に合わせて話し方・仕草を変えて，聴き手の心を惹き付けることを大切にしている。そのため，落語は，適度な難度があり協働的に評価や改善をしながら没頭や探究ができる学習材である。

漫才やコントのボケやツッコミ等から生じる率直な笑いに対して，落語の「落ち」を考え，「落ち」に気付いたときに生じる笑いを奥笑いという。年齢が若い人ほど率直な笑いを好む傾向があり，40才代以下の方が1年間に1回以上落語を見る人の割合は1%に満たない。これまでに校内で落語会を開き，演者と聴き手が一体となることができる楽しい雰囲気や奥笑いの魅力に気付き始めた子どもたちにとって，この調査結果が示す若い人の落語離れの問題は，何とかして落語に興味をもってもらいたいという思いを高めるものである。

落語にあまり興味のない若い人へ興味をもってもらえるような落語会の企画・運営について追究することは，「これまでに気付いた落語の魅力」や「調べた若い人のニーズ」，「自分たちならではのこと」等の多様な角度から分析的に落語会の企画・運営方法について考え，人を楽し

ませることについての知識及び技能を得たり新たにすることになる。また、失敗から学びを積み上げる段階的な過程により、1つ1つの成果を実感し、取組の自信を高めることになる。

これらを通して子どもは、人を楽しませるには自分も楽しみながら話すことや、自分らしさを出すことが大切さであるといった概念的な理解をし、自ら人と関わることを楽しもうとする自分の生き方を広げていく。

(4) 今後の学習

これまでの追究を生かして落語会を開き、地域の人々に落語とその魅力を発信してきたこの学習は、次の小単元「これまでの取組を振り返ろう」において、1年間の取組を振り返り、地域への貢献の成果と自己の成長を実感する学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、本単元の小単元「校内児童に楽しんでもらえる落語家になろう」において、校内児童を楽しませる落語家に向けて、班の友達や師匠とともに表現方法や噺を改善しながら落語会を開く学習をしてきた。この学習の中で明らかになった子どもの実態及び本小単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

① 師匠への質問や試しの落語会、校内への落語会をして、落語や落語にかかわる人々の特徴・よさを得られるようになってきている。このような子どもたちが、これまでに得た落語や落語にかかわる人々の特徴・よさ同士をつながりのあるものにできるように、試しの落語会を複数回設定する。

落語や落語にかかわる人々の特徴・よさについて比較・分類をする際に、メリット・デメリットやPMN、マトリクスを選択して使えるようになってきた。このような子どもたちが、これらのツールを状況に応じて選択して使うことができるように、継続してこれらのツールを用いる機会と用いたよさを振り返る機会を繰り返し設定する。

② 校内への落語会の企画・運営方法についての課題に対して、根拠のある解決方法を導いてきている。このような子どもたちが、校外への落語会の企画・運営方法についての課題に対して、多様な角度から見た根拠のある解決方法をもてるように、自他のもつ情報を可視化し整理するツールの用意をする。

③ 校内への落語会にかかわる課題に向けて、噺や落語の形式等の解決方法を自己決定・集団決定し、課題の解決への意欲と自信をもてるようになってきている。このような子どもたちが、校外への落語会にかかわる課題の解決への意欲と自信をもてるように、落語会の内容や役割分担、PR方法等の解決方法を自己決定・集団決定する機会を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習（43／70時間目）

- ねらい 落語会の内容とその根拠について話し合うことを通して、多様な角度から俯瞰的に見た内容の根拠同士の関係に気付き、納得のいく内容を選ぶ。
- 準備 落語会の内容の案を記した短冊 落語会へのニーズ調査結果 児童が感じている落語の魅力の一覧
- 展開

<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、「落語」に加えて「他の噺の紹介」をしたいと思ったけれど、友達「落語の仕草体験」もいいな。いろいろな案があるな。 ・案の中から、落語に興味のない人でも1時間居たくなるものを話し合っって選びたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の考えた内容の案と自分の案とにズレを感じ、根拠を知りたいという思いをもてるように、案を記した短冊を提示する。(イ) ○学級全体で話し合っって落語会の内容を選ぶという見通しをもてるように、振り返りを基に本時に取り組むことを問いかける。
<p>めあて「落語に興味のない人でも1時間いたくなるような落語会の内容を決めよう」</p> <p>-----</p> <p>〈「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿〉</p> <p>落語会の内容について「ニーズに応える」「落語の魅力が伝わる」「自分たちならではの」等の多様な角度から俯瞰的に見て、自分の思いや収集した情報を基に理由付けした考えを発言したり聞いたりして合意形成を図ろうとしている。</p>	
<p>2 落語会の内容の案の根拠を出し合い、整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは「他の噺の紹介」がいいと思うよ。ニーズ調査でも人気だったし、ぼくは自分の好みの噺に出会って落語が好きになったからね。 ・友達の「落語を勉強してよかったことの説明」はニーズに応えられて、話し方が変わるという魅力を伝えられて、しかも自分たちならではのこともなるのは、説得力があるな。 ・「他の噺の紹介」は、自分たちならではのことという面では弱そうだな。 <p>3 複数の内容の案からふさわしいものを話し合い、選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの案にもよさがあっって、すぐに選べないな。 『ニーズに応える』『落語の魅力が伝わる』『自分たちならではの』の中で、どれを大切にしたらよいかが決まれば、選びやすいな。 ・前に粹楽師匠が「小学生にしかできないことをしてほしい」と言っていたし、小学生でもできるんだと思っってほしいって考えがクラスでも出たから、『自分たちならではの』を優先したらどうかな。すると、「落語を勉強してよかったことの説明」が今回にふさわしい内容だよ。 <p>4 本時の学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの理由を基に決めたから納得のいく内容を選べたな。この内容で落語に興味のなかった人が興味をもっしてほしいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○考えた内容の案の根拠を明確にできるように、落語会へのニーズ調査結果と、児童が感じている落語の魅力の一覧を提示する。 ○どの案にも根拠があり、案のよさを再度考える必要があることに気付けるように、根拠を整理するマトリクスを板書する。(イ) ○複数の案の根拠を多様な角度から見られるように、内容を選ぶ視点『ニーズに応える』『落語の魅力が伝わる』『自分たちならではの』で根拠を色分けして板書する。 ○複数の案とその根拠の状況から、内容の選び方を考える必要があることに気付けるように、マトリクスに整理された案とその根拠を見て気付いたことを問いかける。(イ) ○視点の序列化を図ることができるよう、視点を導いた情報源と、各自が大切にしたい思いを問いかける。 <div data-bbox="853 1608 1404 1809" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価項目</p> <p style="text-align: center;">落語会の内容やその選び方について、複数の根拠を基に記述したり発言したりしている。 <ノート・発言②></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○今後の追究への意欲と自信を高められるように、落語会の内容を選んだ過程のよさと、そのよさを得られた自分の友達の頑張りについての発言や記述を称賛する。

指導と評価の計画（全32時間）

目標	落語にあまり興味をもっていない若い人（親世代以下の年齢）に落語に興味をもってもらい落語会を企画し開催することを通して、相手の反応に応じたり立場を想像したりして解決方法を導くことと、相手を楽しませるには自分も楽しみながら話すことの大切さとその難しさを自覚し、相手との関わり方を問い直す。			
評価規準	(①知識及び技能)地域の寄席の客の年齢層の偏り、「落ち」に気付いて笑う奥笑いのよさ、相手の反応に応じて演じ方を変えること等の落語の特徴・よさを理解している。 落語についての調査結果や落語の特徴・よさの比較・分類をする思考ツールを使ったり、他者の考えを把握して、その考えを解決方法に生かしたりしている。 (②思考力判断力表現力等)落語にあまり興味のない若い人についての課題を設定し、必要な情報を収集し、収集した情報や他者の発言等を根拠として解決方法を導き、実践している。 (③主体的に学習に取り組む態度)若い人に落語への興味をもってもらうことへの関心を高め、取組への思いや自信をもち、自分と相手との関わり方について変化を感じている。			
見方・考え	落語にかかわる広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、若い人に落語の魅力を発信することについての課題を探究し、自分と落語の聴き手との関わり方を問い続ける			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
であ う か か わ る ・ま 生 と か め す る	3	○校内の落語会の参加者の感想や、落語家や商店街寄席の企画者の思いの調査結果を基に、これから取り組みたいことを話し合い、課題をつかむ。 課題：若い人(校外の人)に落語に興味をもってもらえる落語会にするには、どうしたらよいだろう	○落語を発信する目的と相手について、自分の好みだけでなく第三者の考えを聞く必要性に気付けるように、「地域の人の役に立つ」の視点で考えを整理するマトリクスの用意をする。(ア)	◇課題を設定した理由として、自分の好みだけでなく、寄席に来る人の年齢層に大きな偏りがあること等の地域が抱える問題について記述したり発言したりしている。 <ノート・発言③>
	2	○落語会を開催する会場やゴールイメージについて話し合い、計画を立てる。	○自分たちの落語で若い人に興味をもたせられた状態を具体的に想定できるように、落語の魅力を整理する「評価する人」と「評価してもらう方法」の視点を提示する。(ア)	◇落語の特徴・よさを複数、記述したり発言したりしている。 <ノート・発言①>
	2	○落語の魅力とその発信方法について話し合い、落語会の内容を定める。(本時2/2)	○落語会の内容の案とその根拠について把握できるように、複数の内容の案とその根拠を可視化して整理するマトリクスの用意をする。(イ)	◇落語会の内容やその選び方について、複数の根拠を基に記述したり発言したりしている。 <ノート・発言②>
	2	○落語会を開催するために必要な役割や時間配分について話し合い、役割分担を決める。	○落語会の運営に必要な役割分担を考えられるように、客席や人員配置の案を示した会場図の用意をする。	◇落語会の運営に必要なことを基に役割分担について発言している。 <発言①>
	3	○落語会のPR方法について調べ、今回の落語会に合ったPR方法を決める。	○落語会をPRする方法とその根拠を明らかにできるように、課題を解決した状態の具体図とメリット・デメリットの思考ツールの用意をする。(イ)	◇落語に興味のない人の立場を想定して、落語会をPRする方法について記述したり発言したりしている。 <ノート・発言②>
	4	○役割分担に沿って落語会の準備をする。	○落語会に向けた班の中での自己貢献度を自覚できるように、振り返りで記述した「友達の頑張り」を相手に伝え合う時間を確保する。	◇役割分担の大切さや自分と友達への役割について前向きな感情を記述している。<ノート・発言③>
	2	○リハーサルをし、成果と問題点について話し合う。	○リハーサルの成果と問題点について把握できるように、課題を解決した具体図とリハーサルを録画した動画の用意をする。	◇リハーサルの感想を成果と問題点に分類して記述したり発言したりしている。<ノート・発言①>
	2	○リハーサルで得た成果と問題点を基に改善策を話し合い、練習や修正をする。	○「時間内にできる」等の新たな角度から改善策を見付けられるように、成果と問題点を整理するPMNシートの用意をする。(イ)	◇落語会の改善策について、根拠を明確にして記述したり発言したりしている。<ノート・発言②>
	4	○落語会を開催し、参加者の感想を基に、成果と問題点について話し合う。	○落語会の成果と問題点について把握できるように、課題を解決した具体図、参加者の感想、落語会を録画した動画の用意をする。	◇落語会の参加者の感想を成果と問題点に分類して記述したり発言したりしている。 <ノート・発言①>
	4	○落語会の成果と問題点を基に改善策を話し合い、練習や修正をする。	○「自分も楽しむ」等の新たな角度から改善策を見付けられるように、成果と問題点を整理するPMNシートの用意をする。(イ)	◇落語会の改善策について、根拠を明確にして記述したり発言したりしている。<ノート・発言②>
4	○落語会を開催し、参加者の感想を基に成果について話し合う。	○落語会を開催した成果を実感できるように、課題を解決した状態の具体図と、参加者の感想、落語会を録画した動画の用意をする。	◇若い人に落語に興味をもってもらえた自信や自分たちの班の頑張りなどを記述したり発言したりしている。 <ノート・発言③>	

目指せ！幸せ届ける笑学生 大単元資料
～各小単元の課題と子どもの意識の流れ～

【Ⅰ くすの木タイムでやることを決めよう】

(1～7時)

(1) くすの木タイムってどんな学習？

- ・地域の人役に立つことをする
- ・みんな（クラスや専門家）で力を合わせる
- ・自分たちも成長できることをする
- ・70時間をかける価値のあることをする



(2) この学習をしてどんなクラスにしたい？

- ・みんな協力し合えるクラス
- ・たくさん失敗をして成功につなげるクラス
- ・みんな楽しいことを共有できるクラス

課題 今年は何をする？



(3) (1)(2)を実現するために、どのようなもの
やる？

- ・地域の人と楽しめるもの、楽しさを共有できるものいいな
- ・マジックとか、お笑いとか、怪談イベントはどうか



(4) どうやったら決められる？

- ・くすの木タイムにふさわしくて、クラスの成長につながることを条件に選ぶ



候補について調べる

専門家を探して見たり試したりする

候補についてのニーズを調査する



(5) 今年は何をして何をを目指す？

- ・聞いたりやったりして、楽しくて、専門家がいて、人を幸せにできて、若い人にあまり広まらない問題がある落語なら、自分たちが取り組むことを選ぶ条件に合っている

学習のめあて

人を笑わせて幸せを届けられる笑学生落語家になろう



・まずは、もっと落語の魅力を知りたいな



【Ⅱ 落語の魅力をもっと知ろう】(8～13時)

(1) 落語についてもっと知りたいことは？

- ・噺や仕草、歴史等を知りたいな
- ・落語家さんの思いも知りたいな

課題 落語にはどんな魅力があるのだろうか？



(2) 魅力知るにはどうする？

- ・Webページで調べたり動画を見たりしよう
- ・粹楽師匠に質問しよう
- ・寄席に行って聞こう
- ・小話をやってみよう



それぞれの方法で調べる



(3) 新たに知った落語の魅力とは？

- ・たくさんのお噺があって、同じお噺でも落語家によって内容が少しずつ違う
- ・江戸時代の人々の暮らしが分かるだけでなく今の人々にも通じる味わいが感じられる
- ・場面の様子を想像して視線や間、仕草を工夫して演じている
- ・聞き手の反応を見て、演じ手も楽しむ
- ・人前で話すことの大切さを知ることができる
- ・リレー落語や紙芝居落語、落語劇等、さまざまな落語の形式が生まれ、若い人にも親しみやすいような工夫がある



・落語の魅力や落語家の思いを知ったら、自分でも落語を演じてみたいようになってきたな





【Ⅲ 校内児童に楽しんでもらえる落語家になるう】(14~36時)

(1) 誰に向けて落語をやる？

- ・年齢が低いほど落語を聞いたことがない人が多いから、まずは校内の児童に向けてやるのがいい

課題 校内の児童に楽しんでもらえる落語家になるには、どうしたらよいだろう？



(2) どんな噺をどのような形式でやる？

- ・オチが分かりやすかったり笑い所が多かったり内容が興味をひきやすかったりする噺がいい
- ・話し手の負担が少なく、聞き手の親しみやすさのあるリレー落語や紙芝居落語、落語劇等がいい

お薦めの噺が同じ人と班を作り、練習する



(3) 落語家としてさらに上達するにはどうする？

- ・他の班に見せて、アドバイスをもらい、目線や間、仕草、速さを改善しよう

他の班と見せ合い、よいところを真似したりアドバイスを基に改善したりする



(4) 人前で披露できる落語家になったか？

- ・粹楽師匠に聞いてもらおう
- ・師匠からは、もっと聞き手を意識して話すこと、台詞の一言一区を覚えるのではなくストーリーを覚えること、聞き手の反応を楽しむこと、噺の内容を自分たちなりのものに変えることを教わった
- ・聞き手を意識できるように、他の班に聞いてもらいながらもっと練習しよう

練習や校内落語会をする



(5) 校内の児童に楽しんでもらえる落語家になったか？

- ・まだ練習は必要だが、校内の児童に笑った

- り聞き入ったりして楽しんでもらえた
- ・内容や言葉を分かりやすいように工夫したら、お客（聴き手）の反応がよくなった
- ・聴き手の反応を見ながら話して、自分も楽しめるようになってきた
- ・ある程度、楽しんでもらえる落語家になれた



- ・もっと聴き手をひきつけて、地域の人にも落語の楽しさを知ってもらいたい
- ・地域の人ならば、若い人でなくてもいい気がしてきた



【Ⅳ 若い人（校外の人）に落語に興味をもってもらえる落語会を開こう】(37~68時)

(1) 主なターゲットは、本当に「若い人」でよいのか？

寄席に携わる人の考えを調査する



- ・落語に詳しい50才以上の人ならば、自分たちの拙い落語でも内容を理解して楽しんでもらえるかもしれないが、落語に興味のない人の多い若い人に少しでも落語に興味をもってもらう方が、人の役に立つ取組みになると思う
- ・聞きにいった商店街寄席の話で、落語家が若いと聞き手も若くなるとあったから、若い人に見せるのがいい
- ・子どもでもできるんだ…と興味をもってもらえると思う

課題 若い人（校外の人）に落語に興味をもってもらえる落語会にするには、どうしたらよいだろう？



(2) 落語に興味のない人が最後まで落語会に居なくなるような内容とは何か？（本時含む）



予想を基に若い人のニーズを調査する



- ・落語を披露するだけでなく、噺の解説、自分が感じているその噺の面白さや噺の内容

から自分が学んだこと、しぐさを伝えるのは
どうかな

- ・プロの落語家がやらないことで、自分たち
にしかできないこと（自分たちが感じたこ
と）を伝えたい



(3) 子ども図書館や児童文化センター，商業施設
等で落語会を成功させるに必要な役割は何か？

- ・司会や音響，落語の魅力紹介，落語教室，
PR活動等，演目以外に必要な役割がたく
さんあるな
- ・落語会に与えられた時間で収まるように，
必要な当日の役割と時間配分を決めたい
- ・全ての演目をできないから，回ごとに役割
を分担しよう



(4) どうPRするか？

- ・落語会をPRしても興味のない人は来ない
から，何かのついでに寄れるようにしたい
- ・チラシを配るよりも，当日会場にいる人に
声をかける方が効果がありそう
- ・持ち帰られるように，落語の魅力を書いた
チラシはつくろう



(5) 落語会をするにふさわしいものになったか？



落語会



(6) 落語会は若い人に興味をもってもらえるもの
になったか？



落語会



【V これまでの取組を振り返ろう】

(69～70時)

課題 これまでの取組の成果は何か？

- ・落語会の参加者の感想を読むと，落語を楽
しんでもらえたと思う
- ・幸せを届けられて，地域の人の役に立てた
からよかった
- ・落語や落語会は相手があつてのものと思
つた。自分の思いだけで相手に話をしたり
何かをしたりするのは上手くいかず，相
手の反応に応じてたり相手の立場に立って
相手が求めることを考えたりすることが難
しいけれどとても大切だと学んだ
- ・いろいろな立場に立ってたくさんの考えを
話し合えるようになり，自分もクラスも成
長した
- ・相手が楽しいと感じることが自分が楽しむ
ことにつながるのは，落語だけではない。
周囲の人の思いをくんで人を楽しませられ
る人を目指し続けたい。